

ASEANのエクセレントカンパニー②

シンガポール航空 — 最新鋭の翼とやさしいおもてなし



ニッセイ基礎研究所 主席研究員アジア部長
新潟大学大学院 教授

平賀富一
Tomikazu Hiraga

本連載の第2回目は、世界の主要な航空会社を対象とする評価や人気度のランキングで常に上位のポジションを占め^{*}、ASEANのみならずアジアを代表する企業であるシンガポール航空を取り上げる。

*リクルートライフスタイルのエイビエロード・リサーチ・センターの「エアライン満足度調査 2016」でも、シンガポール航空は総合満足度1位を5年連続で獲得。ちなみに2位全日空、3位 KLM オランダ航空、4位ニュージーランド航空、5位エミレーツ航空、6位日本航空。

長期間にわたり安定的な収益確保

1972年にマレーシア航空から分離独立し、現在は企業グループとして中核企業たるシンガポール航空に加えて、タイガーエア、スクート、ビスタラ、ノックスクートといった航空会社、航空貨物企業、機体の整備・修理・メンテナンス企業などを有している。

図表1の業績は、2017年3月期のものである。

図表1 シンガポール航空の概況

会社名	シンガポール航空 (Singapore Airlines Limited)
CEO	ゴー・チュン・ボン (Goh Choon Phong)
資本金	18億5610万シンガポールドル (約1500億円、17年3月末現在)
社員数	グループ計2万5770人 (内シンガポール航空単体1万4833人 (17年2月末))
ネットワーク	世界36カ国106都市 (17年6月1日現在)
年間乗客数	3159万9000人
株主構成および政府との関係	シンガポール財務省が特別株式1株を保有。普通株式の55.33%をシンガポール政府系の投資企業であるテマセック社が保有。政府による経営への関与・支援はない。
業績 (2017年3月期)	連結総営業収益：148億6900万シンガポールドル (約1兆1920億円、対前年2.4%減) 連結営業利益：6億2300万シンガポールドル (約500億円、対前年8.5%減) 連結純利益：3億6000万シンガポールドル (約290億円、対前年55.3%減)

航空業界における競争の激化や燃料価格の変動等といった厳しい環境変化に大きな影響を受けながらも、長期間にわたって相対的に高水準の収益を確保している。同社は上場以来1度も通年単位の決算で損失を出したことがない数少ない優良企業である。

常に最高の商品・サービスを提供

グループの組織構造を見ると、直接出資企業は14社。全額出資が7社(シルクエア、スクート、SIA エンジニアリングなど)、75%超のメジャー出資3社(タイガーエアなど)、マイナー出資4社(インドのTATAとの合弁航空会社やエアバスとの合弁によるトレーニングセンターほか)となっている。航空事業に関する事業ポートフォリオは図表2の通りであり、運航効率と顧客ニーズを踏まえた、2つの軸による4つのセグメントで運航している。このうち中核

図表2 旅客便の運航体制

